

令和4年2月17日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）教職員の配置課題について

教員採用中長期計画に基づき、定数内臨採の解消に向け、既卒者や社会人を対象とした特別選考や、県内・県外大学等での採用試験説明会の開催など、受験者の増加を図るための取組を進めているが、これらの対策がどの程度目標達成に寄与していると認識しているのか、現状の課題分析と併せて、教育長に伺う。

また、目標年度である2024年度までの折り返し時期が到来する中、新たな取組や対策も求められると考えるが、併せて教育長の見解を伺う。

（答）

教員の中長期採用計画につきましては、定数内臨採の段階的縮小を目指して、正規教員を確保するため、県外での採用試験説明会の開催や、他県の現職教員や社会人を対象とした特別選考などに取り組んできたところでございます。

この間の受験倍率が、全国的な低下傾向にある中、本県では、今年度は2.7倍と、計画策定時の2.5倍を維持しており、取組の効果があったものと考えております。

一方で、欠員補充率につきましては、本年度は、小学校と高等学校では、目標に向けて順調に縮小しているものの、中学校と特別支援学校では、拡大しております。

拡大の要因といたしましては、中学校における特別支援学級数や、特別支援学校における学級数の増加に伴い必要人員が増えたこと、加えて、中学校教員の受験者数は、民間の採用状況に左右されやすいことなどから、特定の教科等では十分な教員の確保ができていないといったこともございます。

このため、更なる受験者数の拡大に向けて、今年度から新たに、職員が出前講義として、県内外の11大学に出向き、教員志望の学生を対象に、授業づくりや教師の仕事の魅力などを紹介する中で、本県が進める「学びの変革」への参加を呼び掛けているところでございます。

また、採用試験説明会につきましても、特定の教科等の免許を取得できる大学を中心に、昨年の26大学から43大学に増やして実施したところでございます。

教育委員会といたしましては、引き続き、こうした取組を進め、計画の最終年度である令和6年度の目標達成に向けて、必要な正規職員の確保に努め、定数内臨採の段階的縮小を図ってまいります。